

令和元年 10 月 21 日

## 広島大学国際交流拠点施設を整備します ～「国際的研究拠点東広島」の形成に向けた環境整備～

広島大学は、東広島キャンパスにおける国際的研究拠点東広島の形成に向けて、イノベーション創出、交流、宿泊などの複合的な機能を持つ「国際交流拠点施設」の整備を決定しました。

国際交流拠点施設は、広島大学が地域、行政、内外の大学などと広く連携し、より高度な研究とその成果により、地域活性化に貢献するようなイノベーション創出の拠点とするとともに、内外からトップクラスの研究者や優れた留学生を招くための居住環境の整備の一環として整備するものです。

今後、国際交流拠点施設を核として、研究者、学生、企業家、地域住民等によるオープンイノベーションの場や交流活動の仕組みづくり、海外からの人材の受入環境の整備などを推進し、国際化を加速するとともに、地域に根差した大学としての取り組みを進めます。

1. 開設予定  
2021年（令和3年）秋
2. 事業規模・事業費  
建物延床面積 約 4,000 m<sup>2</sup>  
全体事業費 約 15 億円
3. 施設の整備計画
  - (1) 機能
    - ①イノベーション創出機能
    - ②交流拠点機能
    - ③宿舎・生活機能
  - (2) 施設の概要
    - 1・2階 多目的スペース、会議室、サテライトオフィス等
    - 3～6階 宿舎（70 室程度）、交流ラウンジ等
4. 事業手法  
直接建設方式（設計・施工一括方式）

### 【お問い合わせ先】

学術・社会連携室  
学術・社会連携企画グループ 三戸  
TEL:082-424-5871

# 国際交流拠点施設整備計画の概要

## 1 国際交流拠点施設整備の目的

- (1) 広島大学は、現在スーパーグローバル大学(トップ型)として、徹底した「国際化」を推進し、世界トップレベルに向けた研究の展開、国際通用性の高い教育の提供、地域社会における産業の国際競争力の向上、既存の枠を打ち破るイノベーション創出等に取り組んでいる。そうした中、多くの大学と同様にイノベーション創出や海外からの優秀な人材の獲得は、国際戦略上の大きな課題となっている。それが、最先端の研究成果を生み、地域の産業活動の展開にもつながっていくところである。
- (2) 世界中からトップクラスの研究者や優れた留学生を獲得するためには、広島大学の研究者のネットワークを最大限に活用するとともに、世界水準の研究環境、世界とつながる交流環境、そして世界トップクラスの人材を受け入れることができる優れた生活・居住環境などを整備していく必要がある。
- (3) また、集まった内外の研究者、学生、企業家等によるオープンイノベーションの場、仕組みづくりも重要である。さらに、広島大学が国際化を進めるとともに、地域に根差した大学としての取り組みを進めていく上では、世界展開の拠点であると同時に、地域に開かれた拠点として、多様な立場の人々が幅広く交流ができる機能を持った施設が必要である。
- (4) 以上のようなことから、イノベーション創出、交流、宿泊などの複合的な機能を持つ国際交流拠点施設を整備することにより、広島大学のグローバル化を進め、国際的研究拠点東広島の形成に寄与していくこととする。
- (5) なお、10月7日には、東広島市と「国際的研究拠点東広島の形成に関する協定」を締結しており、イノベーションの創出や国際化の推進、交通アクセスの向上、海外からの研究者や留学生等の生活環境の向上などについて、連携して取り組んでいくこととしている。

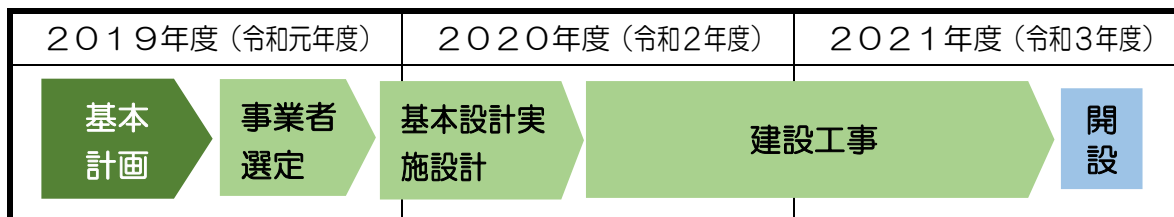
### 課 題

- ① 海外からの優秀な人材の獲得
- ② 東広島における国際的研究拠点の形成支援
- ③ グローバル展開に向けた基盤の強化
- ④ イノベーション創出拠点の整備

### 方向性・機能

- ① オープンイノベーションの場づくり
- ② 世界や地域に開かれた交流拠点の整備
- ③ 海外からの研究者等に向けた快適で安全な居住環境の整備

## 2 今後のスケジュール



- ・ 2021年(令和3年)秋 開設予定

## 3 事業規模・事業費

建物 延床面積 約4,000㎡、全体事業費 約15億円

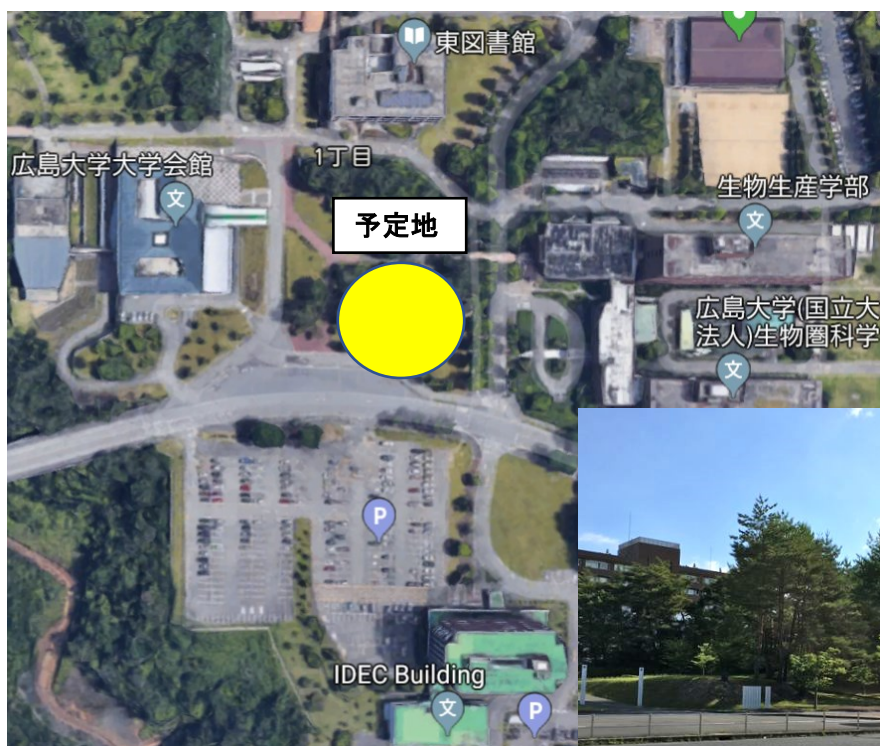
## 4 事業手法

直接建設方式(DB ~ 設計・施工一括方式)

## 5 整備候補地

整備候補地(東広島キャンパス 大学会館東側)の概要

住所	東広島市鏡山一丁目4番5号
計画敷地面積	4,800㎡
都市計画の状況	第1種中高層住居専用地域、市街化区域





## (整備候補地の選考)

施設の性格から、①交通の利便性が高いこと、②他の施設との連絡が良いこと、③安全性が高いこと、などから「大学会館東側」の用地が最も適当であると考えられる。

## ■ 広島大学内の整備候補地(大学会館東側)



## 6 施設整備の基本方針

### (1) 基本的な考え方

東広島地域においては、広島大学や広島中央サイエンスパークに多分野にわたる優れた研究施設が集積し、国際的研究拠点に向けた高い水準の研究に取り組んでいる。

新たな国際交流拠点施設は、その国際的研究拠点の形成に向けた支援施設とし、様々な立場の多くの人たちが集い、交流することができる施設として整備する。さらに、海外からの研究者や留学生が安全で快適に居住できるよう、ユニバーサルデザインの考え方に基づく、誰もが使いやすい施設とするとともに、トップ研究者を受け入れる施設としてふさわしい居住環境を整備するものとする。

広島大学やこの地域の国際化の推進、活性化等に向けて、オープンイノベーションの場づくりなど多様な機能を持ち、100年後にも光り輝く大学としてのシンボルとなる外観の国際交流拠点施設として早期に整備していく。

### (2) 整備の方向性

- ① 景観や地域環境に配慮した施設
- ② 内外の研究者や学生、市民などが集まりやすい施設
- ③ 外国人研究者や留学生等が生活しやすく、使いやすい施設
- ④ 安全で快適な施設及び環境
- ⑤ 維持管理・運営費の軽減に配慮した経済的な施設
- ⑥ 環境へ配慮した施設づくり
- ⑦ 全体共用部分の整備

## 7 施設の整備計画案～施設構成及び整備内容

### (1) 機能等の概要

項目	内容
施設の用途 (建設候補地)	国際交流拠点施設 (東広島市鏡山)
機能① イノベーション 創出機能	・オープンスタイルの多目的スペース (サロン、コワーキングスペース、カフェなど) ・ラウンジ ・打ち合わせコーナー ・情報コーナー など
機能② 交流拠点機能	・オープンスタイルの多目的スペース (サロン、コワーキングスペース、カフェなど) ・ラウンジ ・会議室・セミナー室 ・コミュニティキッチン ・サテライトオフィス など
機能③ 宿舎・生活機能	宿泊室 ラウンジ 管理室

### (2) 施設の規模

延床面積 約4,000㎡

(交流施設:約1,300㎡、居住施設:約2,700㎡)

### (3) 各階の利用についての検討事例 ※今後変更あり

階	機能	部屋数	各室の面積計(m <sup>2</sup> )	階ごと床面積(m <sup>2</sup> )
1階	多目的スペース(サロン、コワーキングスペース、カフェ、打ち合わせコーナー、情報コーナー～壁で遮られない一体的なスペース)、事務室など		528	660
2階	会議室・セミナー室、ラウンジ		528	660
	サテライトオフィス			
	コミュニティキッチン など			
3階	留学生向け居室(18.7 m <sup>2</sup> )	24	448	660
	談話スペース	1	42	
4階	留学生向け居室(18.7 m <sup>2</sup> )	15	280	660
	研究者向け居室(単身)(28 m <sup>2</sup> )	6	168	
	談話スペース	1	56	
5階	研究者向け居室(単身)(28 m <sup>2</sup> )	16	448	660
	談話スペース	1	42	
6階	研究者向け居室(単身)(28 m <sup>2</sup> )	3	84	660
	研究者向け居室(家族)(56 m <sup>2</sup> )	4	224	
	トップ研究者向け居室(56 m <sup>2</sup> )	2	112	
	交流ラウンジ	1	84	

※延床面積 4,000 m<sup>2</sup>

各階延床面積 660 m<sup>2</sup>

留学生向け居室(18.7 m <sup>2</sup> )	39 室
研究者向け居室(単身)(28 m <sup>2</sup> )	25 室
研究者向け居室(家族)(56 m <sup>2</sup> )	4 室
トップ研究者向け居室(56 m <sup>2</sup> )	2 室
合計	70 室